

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

巻頭言 勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド製造業の復活」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

インド有数の財閥であるタタ・グループの N. チェンドラセカラン会長は、昨年 12 月に従業員向けに送った新年のメッセージの中で、インド経済のこれからを “A new manufacturing golden age for India”（インドの新しい製造業の黄金時代）と表現しています。そして、タタ・グループはその方向性に沿って、今後 5 年間で 50 万人の雇用を製造業（半導体、電池、電気自動車、太陽光発電など）から生み出すと、野心的な計画を発表しています。因みに現在のグループの従業員は約 100 万人です。

長い間、「うつろな経済成長、育たぬ製造業、遠い中国の背中」などと、多くのメディアからその成長性に難癖をつけられ続けたインド経済ですが、会長は、「製造業の力でその形が大きく変貌する可能性がある」とも言っています。

それほどまでに、世界のサプライチェーンのシフトはインド経済を有利にしているようです。同時に、その膨大な人材プールと拡大する生産能力、急速に進む交通インフラ整備や、更に政府の製造業支援策などにより、インドの製造業の復活の可能性は日に日に大きくなっています。

インドは昔、インド更紗（木綿地に多色で文様を染めた布製品）で世界に君臨した製造業大国でした。元在インド大使の榎泰邦氏は、「ただ、18～19 世紀の英国の植民地政策によって徹底的に破壊され、『失われた 2 世紀』の傷が余りにも大きく、独立後の社会主義政策下で閉鎖市場であったことも相まって世界の技術革新の波に立ち遅れたことは否みません。これからのインドは本来有している高い物作り能力を発揮して、IT のみならず再び世界の製造業大国に発展する実力を有していると信じております」（2006 年 2 月 9 日在インド日本国大使館）と語っています。今まさに大使の予言が現実になってきているようです。

製造業の発展はその国の経済に大きな乗数効果を生みます。半導体製造だけでも膨大な雇用機会を創出します。現在、インドの GDP に占める製造業の割合は 15%程度ですが、独立 100 周年の 2047 年までには 30%近くに上昇し、中国の背中を跳び越えた世界の工場と呼ばれるようになっていくかもしれませんね。

<インド更紗>



<半導体>

